

台湾新幹線と裏千家北投支部の思い出



交流協会専務理事 舟町仁志

7月1日から交流協会の専務理事に着任いたしました。よろしくご指導のほどお願い申し上げます。

私は、2006年6月から2008年7月まで交流協会台北事務所で副代表として勤務しました。任期の大半は民進党の陳水扁大統領の時代でした。2008年3月の総統選挙で馬英九氏が勝利し、5月から国民党政権となり、まもなくして交流協会台北事務所も、池田代表から斉藤代表に、私から田辺副代表に、といった人事異動が行われました。

台湾での勤務時の最大の関心事は、台湾高速鉄道（台湾新幹線）が無事営業を開始することでした。着任時の局面は、建設工事はほぼ終了し試験走行が開始され運転速度を徐々に上げていくところでした。引渡し前の性能試験、引渡し後の台湾高速鉄道による習熟運転、営業認可を出すための台湾政府による最終試験といった関門が残っていました。ポイントで脱輪する事故が発生して、台湾新幹線の安全面を不安視する記事が新聞紙上を賑わせていました。何とか最終試験を通過して、2007年1月5日から運賃半額で仮営業運転が始まりました。当初は一日片道19本のダイヤで1時間に1本のペース、台北・高雄間約350kmを時速300キロ、最速90分で結ぶので、同じ線路上を走っているのは2編成でそれぞれは300km近く離れている、という事故など想定できない状況でした。それでも、フランス人運転手と台湾人車掌が英語でコミュニケーションを取りながら運転するという、飛行機張りの状況を不安視する声がありました。

現在では台湾人運転手がきちんと養成され、多い時間帯では1時間に6本走行するダイヤで日本の新幹線並みの密度になってきています。当時の騒ぎは杞憂に終わったわけで、台湾東部を除いて航空路線は鉄路に切替わり、台湾新幹線は台北と

高雄を結ぶ大動脈となりました。

副代表は経済以外の仕事もできるということで、それまでの役人生活では経験しなかった文化面での係わりもありました。北投温泉の奥に北投文物館という美しい日本庭園を持つ和風家屋があります。日本統治時代は佳山旅館として営業し、戦時中は出征する台湾兵士の別れを惜しむ場として使われたそうです。本館の二階には舞台付きの和風大広間、茶道用の炉を切った和室に水屋と台所が備わっています。毎月ここで日本から来る先生による裏千家茶道教室が開かれていましたが、長年の業績が認められ2007年12月に裏千家淡交会の北投支部（北投協会）としてスタートすることとなりました。私は茶道は不案内ですが、お声が掛かり顧問の一人として幹部名簿に載せて頂きました。おかげさまで2008年1月に呂秀蓮副総統が茶会に来られた時や、5月に日本から先代家元鵬雲斎大宗匠がお見えになった時に同席し、貴重な体験ができました。

北投協会会員には、大学の日本学科で日本語や日本文化を教えている先生方が多く参加しており、毎月日本から指導に来ている裏千家横浜支部の関宗貴名誉教授が、それらの学校まで足を運び指導されることもあると聞きます。今年は北投文物館での茶道教室が10周年を迎えます。10年間毎月当地を訪れ、茶道の指導に当たられてきた関先生のバイタリティには頭が下がる思いです。先生のご尽力もあり、北投支部の会員も順調に増えているとのことでした。

台湾新幹線と裏千家北投支部は、日本の先端技術と伝統文化ということで全くジャンルの違うものです。しかし私の駐在時に開花時期を迎え、その後時間をかけて台湾の中にしっかりと根付きました。台湾の皆さんの日本への強い関心、旺盛な吸収力、そして帰任から6年間の時間の流れを感じます。